

健康はキョーリンの願いです。

第60期 株主通信 | 2017年4月1日～2018年3月31日

*Kyorin* 



キョーリン製薬ホールディングス株式会社

## 私たちキョーリン製薬グループは、新たな発想で「変革」に挑戦し、 長期ビジョン「HOPE100」の実現を目指します。

平素よりキョーリン製薬グループに対しまして格別のご理解  
とご支援を賜り、誠に有難うございます。

当社グループの2017年4月1日から2018年3月31日まで  
の第60期の事業の概況をご報告申し上げます。



当社グループは、「キョーリンは生命を慈しむ心を買き、人々の健康に貢献する社会的使命を遂行します。」という企業理念の具現化に向け、当社グループの中核企業である杏林製薬(株)の創業100周年(2023年)をみすえた長期ビジョン「HOPE100」を策定し、その実現に真摯に取り組んでおります。

医療用医薬品事業を取り巻く外部環境が一層厳しさを増す中、当社グループは、主力製品の特許満了等、これまでにない大きな経営環境に直面しています。このように変動の大きい環境のもとでは、既存の考え方だけで課題に対応することは困難であり、これまでの業務遂行の仕組みをダイナミックに創り変え、過去の延長線上にはない新たな取り組みを創造・実行していく必要があります。2016年度からスタートした中期経営計画「HOPE100-ステージ2-(2016年度~2019年度)」では、ステートメントを「長期ビジョン実現に向けて、変革(変化と革新)を行い、持続成長を図る」とし、その目標達成に向けて、グループ社員が一丸となり全力で取り組んでまいります。

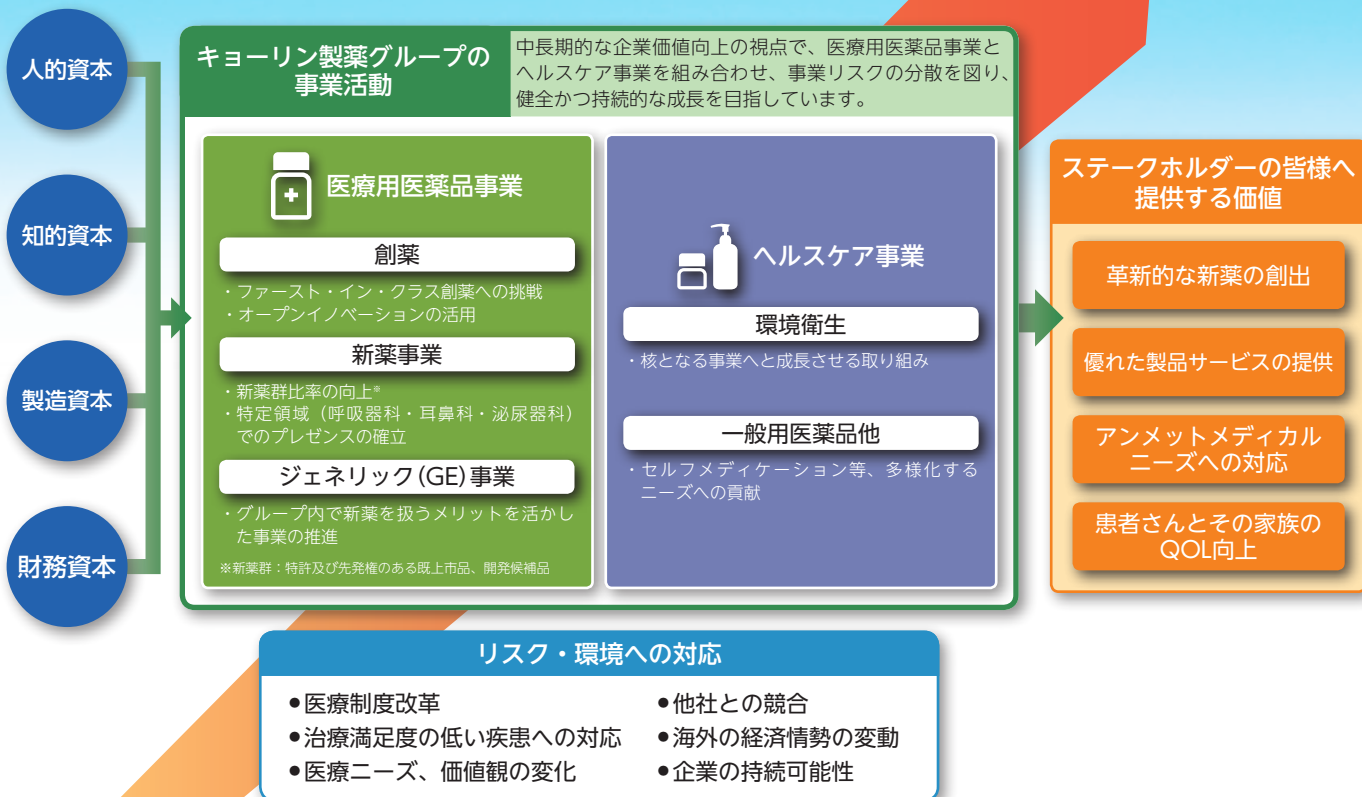
引き続き、なお一層のご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



代表取締役社長  
穂川 稔

## キョーリン製薬グループが目指す企業像と価値創造プロセス

キョーリン製薬グループは、製薬メーカーにとって世界の人々の健康に貢献する革新的な新薬を継続的に創出し届けることが使命であり、自分たちの価値創造の源泉であると考えています。私たちは医療用医薬品事業を中核としつつ、多様な健康ニーズへの対応、及び医療用医薬品事業の成長補完の観点からヘルスケア事業を複合的に組み合わせた事業展開を行い、様々な資本を活用し、ESG（環境・社会・ガバナンス）への対応を行いながら、企業価値の向上に取り組んでいます。



## 当期の概況

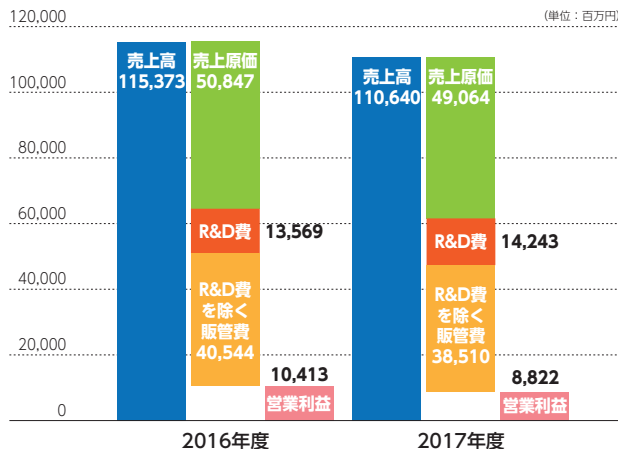
当連結会計年度における国内医薬品業界は、社会保障費の財源確保を背景とした医療費の効率化、薬剤費抑制策等が推進され、市場成長は低位に推移しました。さらに、2016年12月に策定された薬価制度の抜本改革に向けた基本方針のもと、薬価制度の改革について議論され、2018年4月より実施される新たな施策が決定されました。

このような環境の中で、当社グループは長期ビジョン「HOPE100」の実現に向けて、2016年度を初年度とする中期経営計画「HOPE100－ステージ2－（2016年度～2019年度）」のもと、2017年度は経営方針に「多様な知の結集による変革の推進」を掲げ、医療用医薬品事業では持続成長を可能とする医薬事業モデルの進化に取り組み、ヘルスケア事業<sup>\*1</sup>では核となる事業づくりとともに次の核となる候補の探索を推進し、成果目標の達成とステークホルダーの皆様からの支持・評価の向上に努めました。

※1：環境衛生、一般用医薬品他。

当連結会計年度の業績は、医療用医薬品事業では新医薬品（海外）及び後発医薬品は増収となりましたが、新医薬品（国内）の売上が減少したため、前期を下回る実績で推移しました。一方、ヘルスケア事業の売上は横ばいで推移しました。この結果、当連結会計年度の業績は、1,106億40百万円と前期

## 損益の概要



比47億32百万円(前期比4.1%減)の減収となりました。

利益面では、新医薬品（海外）における一時金収入があったものの、新医薬品（国内）の売上の減少及び棚卸資産の除却損等の増加により売上総利益は前期に対して29億49百万円減となりました。販売費及び一般管理費は、コスト削減に取り組んだ結果、研究開発費の増加を吸収し、前期に対して13億59百万円減少しましたが、営業利益は88億22百万円(前期比15.3%減)となりました。親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、ドクタープログラム(株)の株式譲渡益約6億円を特別利益に計上し、導出品(ガチフロキサシン点眼液)に関する米国反トラスト法違反を理由とした集団訴訟に伴う和解関連費用約4億円、信託型従業員持株インセンティブ・プランに関する債務保証損失約4億円等を特別損失に計上したことから、65億74百万円(前期比10.0%減)となりました。

## 医療用医薬品事業

### ■ 新医薬品（国内）

国内医療用医薬品の市場構造が急速に変化する中、杏林製薬(株)は特定領域(呼吸器科・耳鼻科・泌尿器科)の医師、医療機関に営業活動を集中するFC(フランチャイズカスタマー)戦略のもと、エリアマネジメントを軸とした営業体制の再構築を推進し、主力製品の普及の最大化に取り組みました。

中期経営計画の重点戦略に掲げた「新薬群比率の向上」の達成に向けて、主力製品である喘息治療配合剤「フルティフォーム」では処方患者数の増加に努め、長期処方が可能(2017年12月、新医薬品の投薬期間制限解除)となったアレルギー性疾患治療剤「デザレックス」では市場浸透及び処方量拡大に注力した結果、両製品ともに大幅な伸長を示しました。他方、2016年度に特許満了を迎えた気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤「キプレス」、気道粘液調整・粘膜正常化剤「ムコダイン」等の長期収載品は売上が減少し、売上高は737億02百万円(前期比



喘息治療配合剤  
フルティフォーム



持続性選択H<sub>1</sub>受容体拮抗・アレルギー性疾患治療剤  
デザレックス



12.0%減)となりました。

また、杏林製薬(株)は(株)ジェイタスの全株式を2017年7月に取得し、同社を同9月に吸収合併いたしました。(株)ジェイタスは国立研究開発法人 産業技術総合研究所が開発した技術を産業活用することを目的に設立された産総研ベンチャーで、独自技術で改良したPCR<sup>※2</sup>装置により短時間で細菌・ウイルス等を同定することができる超高速遺伝子定量装置「GeneSoC<sup>®</sup>」を開発しました。当社グループは、同技術を活用することで感染症の治療、診断に関わる事業を強化できるものと期待しています。

※2: Polymerase Chain Reactionの略。ポリメラーゼ連鎖反応のことで、遺伝子を増幅させる技術。

### ■ 新医薬品(海外)

杏林製薬(株)において、「FPR2作動薬プログラム(導出先:米国ブリistol・マイヤーズスクイブ社)」の開発進展に伴う一時金収入を計上し、また広範囲抗菌点眼剤「ガチフロキサシン(導出先:米国アラガン社)」に関わる収入も前期を上回ったことから、売上高は33億39百万円(前期比336.8%増)となりました。

### ■ 後発(ジェネリック)医薬品

杏林製薬(株)の主力製品である「キプレス」の特許満了に対応し、2016年9月にキョーリン リメディオ(株)より発売した「モンテルカスト錠10mg・5mg[KM]」(杏林製薬(株)及びMSD(株)が販売している「キプレス」及び「シングレア」のAG<sup>※3</sup>)の売上が大幅に増加し、売上高は276億62百万円(前期比10.5%増)となりました。

※3: オーンライズド・ジェネリックの略。先発医薬品と全く同じ成分(含む、原薬や添加物、製造方法)で製造した後発医薬品。

以上の結果、当セグメントの売上高は1,047億03百万円(前期比4.4%減)となり、セグメント利益は82億60百万円(前期比18.3%減)となりました。

生産部門の取り組みとしては、2017年10月に設立した新生産子会社キョーリン製薬グループ工場(株)(東京都千代田区)

に当社連結子会社である杏林製薬(株)能代工場、キョーリン リメディオ(株)生産本部及びキョーリン製薬グループ工場(株)(滋賀県甲賀市)<sup>※4</sup>を2018年4月1日に統合し、グループの生産機能を集約しました。同日より本格的に稼働したキョーリン製薬グループ工場(株)では、中期経営計画の重点戦略の1つである「ローコスト強化:グループ内最適化によるコスト構造の変革」を目標としてグループ内生産の全体最適化を推進します。

※4: キョーリン製薬グループ工場(株)(滋賀県甲賀市)は、吸収合併により消滅会社となりました。

なお、MSD(株)が製造販売している定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤「ナゾネックス<sup>®</sup>点鼻液50μg」(以下、「ナゾネックス」といいます。)について、杏林製薬(株)はMSD(株)と日本国内における独占販売権を取得することで2018年5月に合意し、同8月より販売を開始することとなりました。当社グループは、積極的なライセンス活動を展開することにより、重点領域(呼吸器科・耳鼻科・泌尿器科)での製品ラインアップ拡充を図り、同領域でのさらなるプレゼンス向上を目指します。

## ヘルスケア事業

中期経営計画の育成戦略に掲げた「環境衛生の事業成長と既存事業との連携強化により核となる事業を作る」の達成に向けて、環境衛生における製品ラインアップ拡充と売上の拡大に努めました。主要製品である環境除菌・洗浄剤「ルビスタ」、哺乳びん・乳首・器具等の消毒剤「ミルトン」の伸長に加えて、日本エア・リキード(株)との販売業務提携によって2017年3月から取り扱いを開始した手指衛生製品群が寄与し、環境衛生・一般用医薬品他の売上は前期を上回る実績で推移しました。他方、ドクタープログラム(株)の全株式を大正製薬(株)に2017年4月1日に譲渡したことから、スキンケア製品の売上は減少しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は59億37百万円(前期比2.2%増)となり、セグメント利益は1億87百万円(前期はセグメント損失1百万円)となりました。



気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤  
**キプレス**



気道粘液調整・粘膜正常化剤  
**ムコゲイン**



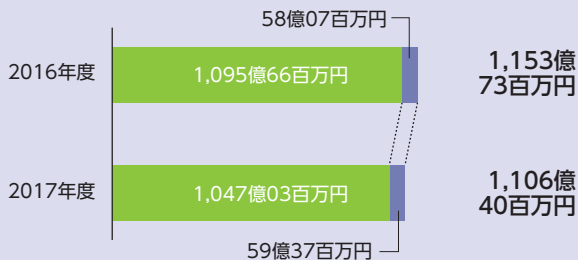
環境除菌・洗浄剤  
**ルビスタ**



哺乳びん殺菌消毒剤  
**ミルトン**

セグメント別売上高

■ 医療用医薬品事業 ■ ヘルスケア事業



研究開発の状況

新薬メーカーにとっては、未だ数多く存在するアンメットメディカルニーズに応え、世界の人々の健康に貢献する革新的な新薬を継続的に創出し、届けることが使命です。杏林製薬(株)では、オリジナル新薬の創製こそが真の成長の原動力となり、持続成長に結びつくと認識に基づき、自社の基礎研究技術及びオープンイノベーションによる創薬力の強化に取り組んでいます。また、日本国内においては自社オリジナル新薬に加えて導入を積極的に推進し、重点領域における開発パイプラインの拡充、新薬の早期開発に最大限注力しています。

国内開発の進捗状況

喘息治療配合剤[KRP-108P]のPhⅢ臨床試験(フルティフォームの小児適応拡大)を2017年6月より開始し、過活動膀胱治療剤[KRP-114V]について同9月に製造販売承認を厚生労働省に申請いたしました。なお、同4月、厚生労働省に製造販売承認申請をしたキノロン系合成抗菌剤[KRP-AM1977X]につきましては、追加の非臨床試験が必要となり、同7月に実施を決定し、現在、追加試験を実施しております。

また、重点領域である泌尿器科において開発パイプラインの拡充を図るべく、杏林製薬(株)は、(株)三和化学研究所が開発した夜間多尿に伴う夜間頻尿治療剤[KRP-N118(SK-1404)]について2018年3月に同社とライセンス契約を締結し、日本、アジア(香港、台湾、アセアン10カ国)における開発、販売に関する独占的権利を取得しました。なお、当契約に伴う契約一時金を研究開発費として当連結会計年度に計上しております。

導出品の進捗状況

導出先であるブリストル・マイヤーズスクイブ社が2018年3月期 第3四半期連結会計期間に「FPR2作動薬」のPh I 臨床試験を開始しました。

創薬研究

オープンイノベーションの一環として、京都大学との共同研究講座「呼吸器疾患創薬講座」を2017年4月に開設し共同研究を開始しました。京都大学が持つ病態研究力(肺線維症等の臓器線維化プロセス)及び基礎研究力(iPS細胞を用いた技術基盤の応用)と杏林製薬(株)が有する創薬力を融合させ、呼吸器疾患の病態因子を同定し創薬ターゲットとしての可能性を検証研究することで、新規創薬ターゲットの創出、低分子化合物候補の発見等を目指します。

次期(2019年3月期)の見通し

次期連結会計年度における売上高は、医療用医薬品事業では新医薬品(海外)及び後発医薬品が減収となる見通しですが、新医薬品(国内)は増収となり、ヘルスケア事業の売上も2017年度を上回る見通しで、全体として増収を見込みます。新医薬品(国内)におきましては、2018年4月に実施された薬価改定(杏林製薬7%台)による売上減少の影響はあるものの、主力製品であるフルティフォーム及びデザレックスの伸長、MSD(株)と契約締結したナゾネックスの販売開始により売上増加を見込みます。新医薬品(海外)における売上減少の主な要因は、2017年度に計上した導出品に関わる一時金収入の反動減によるものです。利益面では、薬価改定の影響及び導出品に関わる一時金収入の減少により売上総利益は減少するものの、研究開発費を含む販売費及び一般管理費が大幅に減少する見通しであり、ほぼ横ばいを見込みます。

2019年3月期連結業績予想(通期)(2018年5月10日公表)

|                 |                   |
|-----------------|-------------------|
| 売上高             | 1,144億円(前期比3.4%増) |
| 営業利益            | 86億円(前期比2.5%減)    |
| 経常利益            | 92億円(前期比1.6%減)    |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 66億円(前期比0.4%増)    |

# 主な開発品の動向 | Products under Development

(2018年5月10日現在)

## Ph (フェーズ) I ~承認 (上市)

| 製品名・開発コード          | 薬効          | 起源             | 特徴  | 開発段階                              |
|--------------------|-------------|----------------|---|-----------------------------------|
| KRP-114V           | 過活動膀胱       | 米国<br>メルク社     | <ul style="list-style-type: none"> <li>従来の過活動膀胱治療薬と比較して、副作用が少なく、服薬コンプライアンスが高まることが期待される</li> <li>β3作動薬として、薬物相互作用が少ない</li> <li>本剤が分類されるβ3作動薬は、過活動膀胱治療におけるファーストラインとなる可能性がある</li> </ul>     | 国内<br>フェーズⅢ<br>2017年9月            |
| KRP-AM1977X (経口剤)  | キノロン系合成抗菌剤  | 自社             | <ul style="list-style-type: none"> <li>75mg 1日1回投与で優れた臨床効果を確認 (市中呼吸器感染症・耳鼻咽喉感染症)</li> <li>呼吸器、耳鼻科感染症の起炎菌、及びβラクタム系・マクロライド系抗菌薬耐性株に対して強力な抗菌活性を示す</li> <li>血漿比10倍を超える肺組織への良好な移行性</li> </ul> | 国内<br>フェーズⅢ<br>2017年4月            |
| KRP-AM1977Y (注射剤)  | キノロン系合成抗菌剤  | 自社             | <ul style="list-style-type: none"> <li>高い安全性が期待される</li> <li>同系統の抗菌剤で懸念される、血糖値異常、光線過敏症、関節障害、消化器症状などを引き起こす可能性は低い</li> </ul>   | 国内<br>フェーズⅢ<br>2016年3月            |
| KRP-116D           | 間質性膀胱炎治療剤   | —              | 医療上の必要性の高い未承認薬・適用外薬に該当する「ジメチルスルホキシド」  | 国内<br>フェーズⅢ<br>2017年3月            |
| KRP-108P           | 気管支喘息       | 英国<br>ベクチュラ社   | 喘息治療配合剤「フルティフォーム」の小児適応拡大  | 国内<br>フェーズⅢ<br>2017年6月            |
| KRP-N118 (SK-1404) | 夜間多尿に伴う夜間頻尿 | (株)三和化学<br>研究所 | <ul style="list-style-type: none"> <li>バソプレシンV2受容体のアゴニストで、腎臓の集合管で水の再吸収を促進して尿量を減らす (抗利尿作用)</li> <li>有効性と安全性に優れた夜間多尿に伴う夜間頻尿治療薬として期待されている</li> </ul>                                       | 国内<br>フェーズⅢ                       |
| Ad-SGE-REIC        | 悪性胸膜中皮腫     | 岡山大学           | 岡山大学で発見された新規がん抑制遺伝子REICを使用する遺伝子治療薬。がん細胞選択的アポトーシスと抗がん免疫の活性化を誘導することが期待される   | 国内<br>フェーズⅢ<br>2015年7月 Ph I / II  |
| <b>【導出品】</b>       |             |                |   |                                   |
| FPR2作動薬プログラム       | 非開示         | 自社             | FPR2作動薬。主に好中球の遊走を抑制し抗炎症作用を示す  | 海外<br>フェーズⅢ<br>米国プリストル・マイヤーズスクイブ社 |

### 開発プロセスの概要

#### フェーズⅠ

##### (第Ⅰ相臨床試験)

同意を得た少数の健康人志願者を対象に、安全性のテストを行う臨床試験

#### フェーズⅡ

##### (第Ⅱ相臨床試験)

同意を得た少数の患者さんを対象に、有効で安全な投薬量や投薬方法などを確認する臨床試験

#### フェーズⅢ

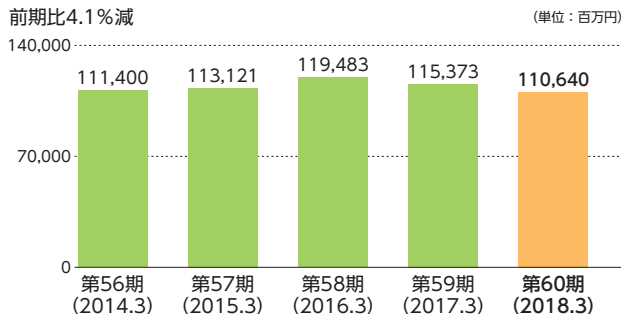
##### (第Ⅲ相臨床試験)

同意を得た多数の患者さんを対象に、既存薬などと比較して新薬の有効性及び安全性をチェックする臨床試験

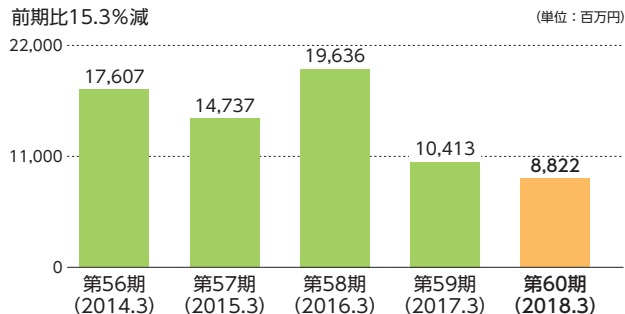
#### 申請

有効性・安全性が確認された新薬の製造販売承認を厚生労働省に申請

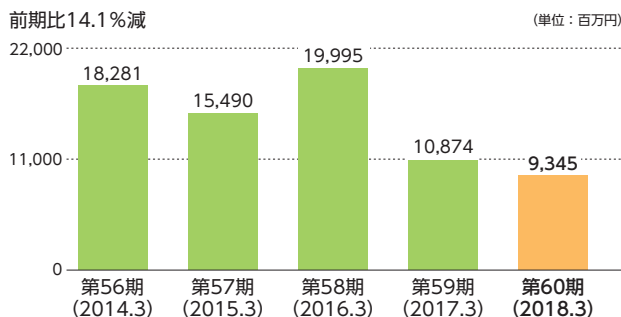
売上高 110,640百万円



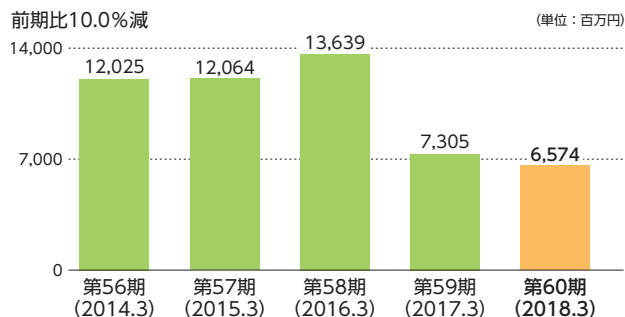
営業利益 8,822百万円



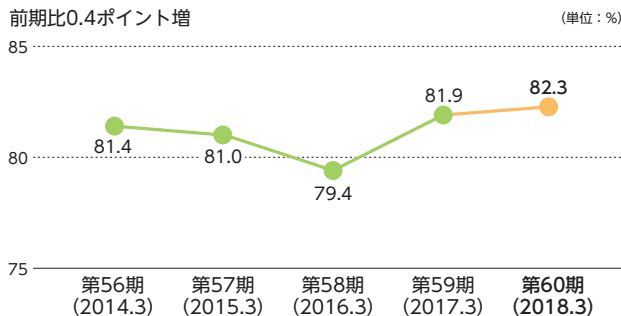
経常利益 9,345百万円



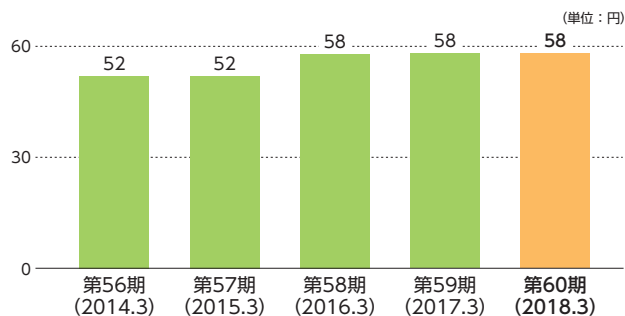
親会社株主に帰属する当期純利益 6,574百万円



自己資本比率 82.3%



配当金 58.00円





**連結貸借対照表(要旨)**

(単位:百万円)

|                | 前期末<br>2017年3月31日現在 | 当期末<br>2018年3月31日現在 |
|----------------|---------------------|---------------------|
| <b>【資産の部】</b>  |                     |                     |
| <b>流動資産</b>    | 126,267             | <b>122,098</b>      |
| <b>固定資産</b>    | 66,400              | <b>76,251</b>       |
| 有形固定資産         | 22,432              | <b>21,901</b>       |
| 無形固定資産         | 1,204               | <b>1,750</b>        |
| 投資その他の資産       | 42,763              | <b>52,600</b>       |
| <b>資産合計</b>    | 192,668             | <b>198,350</b>      |
| <b>【負債の部】</b>  |                     |                     |
| <b>流動負債</b>    | 25,033              | <b>25,134</b>       |
| <b>固定負債</b>    | 9,797               | <b>9,918</b>        |
| <b>負債合計</b>    | 34,831              | <b>35,053</b>       |
| <b>【純資産の部】</b> |                     |                     |
| <b>株主資本</b>    | 152,585             | <b>155,489</b>      |
| 資本金            | 700                 | <b>700</b>          |
| 資本剰余金          | 4,752               | <b>4,752</b>        |
| 利益剰余金          | 150,301             | <b>152,542</b>      |
| 自己株式           | △3,168              | <b>△2,506</b>       |
| その他の包括利益累計額    | 5,251               | <b>7,808</b>        |
| <b>純資産合計</b>   | 157,837             | <b>163,297</b>      |
| <b>負債純資産合計</b> | 192,668             | <b>198,350</b>      |

**連結損益計算書(要旨)**

(単位:百万円)

|                    | 前期<br>2016年4月1日から<br>2017年3月31日まで | 当期<br>2017年4月1日から<br>2018年3月31日まで |
|--------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|
| <b>売上高</b>         | 115,373                           | <b>110,640</b>                    |
| 売上原価               | 50,847                            | <b>49,064</b>                     |
| <b>売上総利益</b>       | 64,526                            | <b>61,576</b>                     |
| 販売費及び一般管理費         | 54,113                            | <b>52,753</b>                     |
| <b>営業利益</b>        | 10,413                            | <b>8,822</b>                      |
| 営業外収益              | 510                               | <b>640</b>                        |
| 営業外費用              | 49                                | <b>118</b>                        |
| <b>経常利益</b>        | 10,874                            | <b>9,345</b>                      |
| 特別利益               | 48                                | <b>627</b>                        |
| 特別損失               | 1,205                             | <b>910</b>                        |
| <b>税金等調整前当期純利益</b> | 9,716                             | <b>9,061</b>                      |
| 法人税、住民税及び事業税       | 1,597                             | <b>2,759</b>                      |
| 法人税等調整額            | 814                               | <b>△272</b>                       |
| <b>当期純利益</b>       | 7,305                             | <b>6,574</b>                      |
| 親会社株主に帰属する当期純利益    | 7,305                             | <b>6,574</b>                      |

**連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)**

(単位:百万円)

|                                 | 前期<br>2016年4月1日から<br>2017年3月31日まで | 当期<br>2017年4月1日から<br>2018年3月31日まで |
|---------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|
| <b>営業活動による<br/>キャッシュ・フロー</b>    | 16,386                            | <b>10,456</b>                     |
| <b>投資活動による<br/>キャッシュ・フロー</b>    | △13,142                           | <b>△6,038</b>                     |
| <b>財務活動による<br/>キャッシュ・フロー</b>    | △5,721                            | <b>△3,735</b>                     |
| <b>現金及び現金同等物に<br/>係る換算差額</b>    | △65                               | <b>△210</b>                       |
| <b>現金及び現金同等物の<br/>増減額(△は減少)</b> | △2,543                            | <b>471</b>                        |
| <b>現金及び現金同等物の<br/>期首残高</b>      | 45,043                            | <b>42,499</b>                     |
| <b>現金及び現金同等物の<br/>期末残高</b>      | 42,499                            | <b>42,971</b>                     |

中期経営計画「HOPE100—ステージ2—(2016年度～2019年度)」

事業戦略

■ 重点戦略

① 創薬力の強化

継続的に革新的な新薬を生み出す体制を構築し、ファースト・イン・クラス創薬への取り組みを進めます。具体的には、FC領域における新奇な創薬ターゲットを見出すとともに、低分子をベースにした既存の創薬プラットフォームと、ペプチドや遺伝子治療といった新技術の活用により、ファースト・イン・クラスの新薬を創出します。さらに、オリジナル新薬のグローバルな展開と開発の加速化に向けて、パートナーとの早期の提携を目指します。

② 新薬群比率の向上

新薬群の普及の最大化によって、2019年度には新薬群比率を50%以上まで向上させます。特許切れを迎える「キプレス」の落ち込みを、新薬群の伸長によって乗り切っていくために、3成分4製品(アレルギー性疾患治療剤「デザレックス」、キノロン系合成抗菌剤「KRP-AM1977X(経口剤)及びY(注射剤)」、過活動膀胱治療剤「KRP-114V」)を「ステージ2」の期間内に上市させるとともに、「フルティフォーム」と併せて製品普及の最大化を目指します。

③ 特色を活かしたジェネリック事業の推進

自社で開発・生産・販売を行っていることに加え、グループ内に杏林製薬(株)という新薬を扱う企業を有するという特性を活かし、オーソライズド・ジェネリック(以下、AG)を積極的に取り扱っていきます。キプレスのAGであるモンテルカスト錠「KM」のジェネリック医薬品市場での高いシェア獲得を目指すとともに、新たなAGの獲得も視野に入れていきます。

④ ローコスト強化

グループ内最適化によるコスト構造の変革を行います。新薬を扱う杏林製薬(株)能代工場、MSD製品を含め様々な製品を扱うキョーリン製薬グループ工場(株)、ジェネリック医薬品を扱うキョーリンリメディオ(株)井波工場、3つの性格の異なる工場の協業による全体最適化を進め、新薬群、先発品群、後発品群の枠を超えて適切な場所で製造を行うことで、工場稼働率の平準化と資産の効率活用を図っていきます。

■ 育成戦略

① 海外進出

世界の人々にオリジナル新薬を届けるための取り組みを展開します。具体的には、欧米展開は他社とのパートナーリングにより自社で創出した革新的な新薬のグローバルな展開を推進し、海外売上上の獲得を目指します。また、他社との協業を通じてアジアを中心に将来の直接的進出の礎を築きます。

② ヘルスケア事業

環境衛生に関わる事業(環境除菌・洗浄剤「ルビスタ」)を成長させるとともに、既存事業との連携強化を図り、核となる事業の創出に取り組みます。また、次の核となる候補の道筋をつけていきます。

組織化戦略

当社グループは、社員を大切に、人と組織を活性化することが、事業戦略を遂行し、成果を具現するための最重要課題と位置づけています。「ステージ2」においても、社員にとって「働きがいNo.1企業」の実現を目指し、人材マネジメントの基本方針のもと、採用、配属、育成、評価、異動、報酬、福利厚生等、グループ各社の人材マネジメントシステムの再構築と人材育成の強化に取り組みます。

中期経営計画「HOPE100—ステージ2—」の進捗と2018年度の取り組み

事業戦略

① 創薬力の強化

事業戦略の中の重点戦略において、創薬力の強化は最重要課題であり、わたらせ創薬センターとActivX社の連携による自社創薬に、国内外の製薬企業、アカデミア、ベンチャー企業とのオープンイノベーションを加えることで、既存創薬プラットフォームの活性化、新技術(ペプチド、遺伝子治療など)の活用にも努めました。2018年度は、創薬テーマの選択と集中をさらに進め、重層的なプログラム開発に取り組むとともに、外部創薬テーマの積極的な探索・導入を行い、ファースト・イン・クラス創薬に向けて、確実に歩みを進めます。

② 新薬群比率の向上

喘息治療配合剤「フルティフォーム」や2017年度より長期処方が可能となったアレルギー性疾患治療剤「デザレックス」をはじめとする新薬群の普及の最大化に引き続き取り組みます。それに加え、2018年度は、MSD(株)より独占販売権を取得したアレルギー性鼻炎治療剤「ナゾネックス」の販売を開始するとともに、過活動膀胱治療剤「KRP-114V」の年度内の上市を目指します。

③ 特色を活かしたGE事業の推進

2016年度にモンテルカストAGの発売を開始し、ジェネリック内シェア50%以上を獲得しました。2018年度は、次なるAGの展開を推進していきます。

④ ローコスト強化

グループ内生産体制の統合を目的に新生産子会社キョーリン製薬グループ工場(株)を設立し、2018年4月1日、当社グループの生産機能を集約いたしました。2018年度は、工場稼働率の平準化と資産の効率活用に取り組み、引き続き高品質の製品を安定的かつ低コストで供給する競争力のあるグループ生産体制の構築に努めてまいります。

育成戦略

ヘルケア事業では、2016年度に販売を開始した手指衛生製品群の売上が拡大しました。今後も、環境衛生に関わる事業のさらなる拡大を図ります。また医療用医薬品事業では、2017年度に感染症の起炎菌及びウイルスを特定する診断事業に参入しました。2018年度は、次の核となる事業への成長を推進してまいります。


**会社概要** (2018年3月31日 現在)

|       |  |
|-------|--|
| 商号    | キョーリン製薬ホールディングス株式会社<br>(英文: KYORIN Holdings, Inc.) |
| 事業内容  | 創薬ビジネス・医薬事業等を営む子会社を中心とするグループ全体の経営戦略機能を担う持株会社       |
| 本社所在地 | 〒101-8311<br>東京都千代田区神田駿河台4丁目6番地                    |
| 設立    | 1958年(昭和33年)                                       |
| 資本金   | 7億円  |
| 従業員   | 115名(連結2,348名)                                     |


**グループ会社(連結子会社)**

- 杏林製薬株式会社(東京都千代田区)
  - キョーリン リメディオ株式会社(石川県金沢市)
  - キョーリン メディカルサプライ株式会社(東京都千代田区)
  - キョーリン製薬グループ工場株式会社(東京都千代田区)
  - キョーリン製薬グループ工場株式会社(滋賀県甲賀市)\*
- \*キョーリン製薬グループ工場(株)(滋賀県甲賀市)は、吸収合併により消滅会社となりました。


**株式の状況**

|          |                   |
|----------|-------------------|
| 発行可能株式総数 | 297,000,000株      |
| 発行済株式の総数 | 74,721,250株       |
|          | (自己株式226,378株を除く) |
| 当期末株主数   | 8,349名            |


**役員** (2018年6月22日 現在)

|          |        |             |
|----------|--------|-------------|
| 取締役及び監査役 | 穂川 稔   | みのもる 稔      |
| 代表取締役社長  | 山田 正弘  | まさひろ ひろ     |
| 取締役相談役   | 荻原 豊   | おぎはら ゆたか    |
| 常務取締役    | 荻原 茂   | おぎはら しげる    |
| 常務取締役    | 荻原 茂   | おぎはら しげる    |
| 取締役      | 阿久津 賢二 | あくとつ けんじ    |
| 取締役      | 笹原 富弥  | ささはら とみや    |
| 取締役      | 大野田 道郎 | おおの たみちろう   |
| 取締役      | 萩原 幸一郎 | はぎはら こういちろう |
| 取締役(社外)  | 鹿内 徳行  | しかない のりゆき   |
| 取締役(社外)  | 重松 健   | しげまつ けん     |
| 取締役(社外)  | 後藤 陽   | ごとう しょう     |
| 常勤監査役    | 松本 春   | まつもと はる     |
| 常勤監査役    | 玉置 吾   | たまぎ しゅうご    |
| 監査役(社外)  | 小幡 雅   | おまた まさ      |
| 監査役(社外)  | 山口 隆   | やまぐち たか     |
| 監査役(社外)  | 亀井 温裕  | かめい なるひろ    |
| 執行役員     | 伊藤 洋   | いとう やす      |
| 上席執行役員   | 二井 康夫  | にい かつお      |
| 執行役員     | 小尾 紀行  | おのおの き      |
| 執行役員     | 橋爪 浩   | はしづめ ひろし    |

## 株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで  
定時株主総会 6月に開催  
基準日 定時株主総会の議決権 3月31日  
期末配当金 3月31日  
中間配当金 9月30日

単元株式数 100株

株主名簿管理人 (特別口座管理機関) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
みずほ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部

(お問合せ先) 〒168-8507  
東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部  
電話 0120-288-324(フリーダイヤル)

お取扱店 みずほ信託銀行株式会社 全国各支店  
みずほ証券株式会社  
本店及び全国各支店

公告掲載紙 日本経済新聞

## (ご注意)

1. 口座管理機関(証券会社等)の口座に株式をお預けの株主さまの場合  
住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種手続きにつきましては、お取引の口座管理機関(証券会社等)が窓口となります。  
株主名簿管理人(みずほ信託銀行)ではお取り扱いできませんので  
ご注意願います。
2. 特別口座に記録された株式をお持ちの株主さまの場合  
住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種手続きにつきましては、みずほ信託銀行証券代行部(株主メモ参照)にお問合せ願います。
3. 2018年6月4日付で発送いたしました第60回定時株主総会招集ご通知に同封の「配当金計算書」は、確定申告の際の参考資料としてご利用いただけます。株式数比例配分方式を選択された株主さまにつきましては、お取引の証券会社にご確認ください。
4. 未受領の配当金につきましては、左記お取扱店(株主メモ参照)及びみずほ銀行本店・全国各支店でお支払いいたします。

ホームページのご案内 <http://www.kyorin-gr.co.jp/>



株主の皆さまにタイムリーな情報をお届けいたしておりますのでぜひご覧ください。

### ホームページサイト

|                 |  |
|-----------------|--|
| キョーリン製薬グループについて | 企業理念・長期ビジョン、目指す企業像、中期経営計画 等                |
| グループ事業          | トップメッセージ、グループの歴史、グループの全体像、価値創造プロセス、事業の概要 等 |
| 株主・投資家情報        | 中期経営計画、研究開発パイプライン、財務・業績、IRライブラリ、株式情報 等     |
| CSR活動、企業情報      | 等  |

## 株主の皆さまの声をお聞かせください

当社では、株主の皆さまの声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。  
お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

 <http://www.e-kabunushi.com>  
アクセスコード 4569

いいかぶ

検索



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)  
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

- アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から  
抽選で薄謝(図書カード500円)  
を呈呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社 a2media(イー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社 a2mediaについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

- アンケートのお問合せ TEL: 03-5777-3900 (平日 10:00~17:30)  
「e-株主リサーチ事務局」 MAIL: info@e-kabunushi.com

## キョーリン製薬ホールディングス株式会社

〒101-8311  
東京都千代田区神田駿河台4丁目6番地  
TEL:03-3525-4700(代)



PROJECT-  
With the Earth

この冊子の印刷・製本に係るCO<sub>2</sub>は  
PROJECT-With the Earth を  
通じてオフセット(相殺)しています。

UD  
FONT

見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。

